弥生時代の大型土坑

-東海地域を中心として-

蔭山誠一

弥生時代の尾張地域の遺跡においてよくみられる大型土坑について、形態や埋土の特徴から、その機能の主体を生活道具類の廃棄と考え、遺跡中では居住域に多く、墓域に少ないことを明らかにした。さらに阿弥陀寺遺跡の事例から大型土坑が竪穴住居の周囲 10m 程の範囲に掘られ、被熱痕跡がある埋土の土坑が竪穴住居群の間の空閑地に多いことを推定した。また東海地域の弥生時代~古墳時代前期前半にかけての遺跡にみられる大型土坑についても分析し、尾張地域における占地と同様な特徴を確認した。東海地域では沖積微高地に立地する遺跡において多くの大型土坑が掘られ、弥生時代後期~古墳時代前期初頭の遺跡に少ない傾向を指摘した。

1 はじめに

尾張地域における弥生時代の集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、方形集溝墓、環濠、土坑、溝など様々の形態をした遺構が検出できる。筆者は、近年当センターにおける発掘調査に携わる中で、比較的土器など遺物が多く出土し、阿弥陀寺遺跡の報告などにおいて焼土や炭、灰層を堆積する土坑として分析された大型土坑について、当地域の弥生時代集落を考える資料にならないだろうかという認識を抱いていた。

今回分析するような大型土坑は、1967年に石野博信氏により弥生時代における貯蔵のための施設としてとりあげられた「貯蔵施設の三形態」である「屋内小土坑」、「屋外土坑」、「高床倉庫」の「屋外土坑」の一部に当たり、弥生時代の貯蔵施設について「中期以降の三者の実態を要約すれば、住居に接していくつかの屋外土坑が付設され、住居内には小土坑が、離れて集落の一画には高床倉庫が建てられるという形態をとる」としてまとめられた「屋外土坑」の恐らく大部分に当たるものと思われる。石野氏が当時全国で蓄積された弥生時代集落の調査事例を網羅して分析された労作であり、各地の屋外土坑についてその機能等にも追求された研究で

ある(石野 1967)。今回の分析は貯蔵施設としての大型土坑ではないが、大型土坑の占地の結論は石野氏の屋外土坑の実態とされたものと同じものを想定しているものと考えられる。同様に弥生時代前半期の北部九州地域を中心に分布する袋状竪穴についても、弥生時代の貯蔵施設として武末純一氏が竪穴住居との関係から高床倉庫と推定される掘立柱建物との集落内における位置関係から分析を試みられている(武末1991)。また弥生時代の北部九州地域に展開する墓域内にある「墓域縁土坑」について、多くの土器類が出土する類例から墓前における祭祀に関する分析がある(川上 1995)。

以上から考えると弥生時代の遺跡において、様々な形態をとり、広く展開する遺構として認識できる可能性が高いように思われる。そのために弥生時代における遺跡の分析・研究の中では、集落の広がりや変遷を考えるための材料にはなってきたが、個別の研究素材としてはあまりとりあげられてこなかったものといえるだろう。

よって本論では、弥生時代の東海地域における集落遺跡において、大型土坑がどのように展開するのか、立地との関係、時期的変遷、遺跡内における占地の特徴について検討したい。尚、本論では土坑の平面における長径が1.0m以上のものを主体に分析し、また長径0.5m以

上 1.0m 未満のものを中型土坑としてとりあげる (溝状の遺構は除く)。

2 大型土坑の特徴

まず、大型土坑の特徴について弥生時代の発掘資料が多く、遺跡立地等条件が均質な尾張地域における遺跡調査の事例をもとに考えたい(表1)。

(1) 大型土坑の形態分類とその傾向

大型土坑の規模は、大きいもので長径が10mを超し、短径においても3mを超すものがあるが、全体的には短径が1m前後であり、竪穴住居より小さい。遺構の深度は規模により様々であるが、30cm~50cm前後のものが多いように思われ、全体的には竪穴住居よりは深い遺構として検出される場合が多い。

形態に関しては、一色青海遺跡において平面 の形態分類を、阿弥陀寺遺跡において埋土の分 類がされている。この結果からは、土坑の使わ れ方には焼土と灰層・炭層が互層になるものや 炭層が顕著にみられるもの、多量の土器が出土 するもの、それらがあまりみられないものが存 在することから、機能の違いを推定できるが、 土坑の平面や断面形態との対応関係はあまり認 められていない。また焼土と灰層・炭層のラミ ナ堆積が顕著に認められる土坑は、土坑内にお ける火の利用も考えられるが、土坑内の壁面が 被熱しているものはない。阿弥陀寺遺跡の報告 に指摘があるように、集落遺跡の土坑の埋土は 違いがあり分類は可能ではあるが、ほとんどの 土坑に炭化物は含まれ、多くは程度の差とも考 えられる。

よって当地域にみられる弥生時代の大型土坑の大部分は、井戸や土坑墓を除くと形態と埋土などの特徴から廃棄を主体とした性格のものといえる。

(2) 遺跡内における占地

今回対象にしている大型土坑の遺跡内における分布について考える。

居住域に分布する土坑

遺跡の居住域に展開する土坑の存在について

は、土坑自体が竪穴住居や掘立柱建物と同様、遺跡における居住域を構成する要素と考えられて分析されることもあるので、ほとんどの遺跡の居住域内にみられる。しかし、遺構の検出状況において重複が認められる大型土坑と竪穴住居・掘立柱建物等の建物遺構は、検出状況からは同時存在があり得ないものと考えられ、建物遺構との占地の関係の変化がみられるものといえる。

実際に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、大 型土坑が10基以上見つかっている遺跡には、 弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期 中葉後半・中期後葉・後期・古墳時代前期の朝 日遺跡、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺 跡、弥生時代中期前葉~中期中葉の志賀公園遺 跡、猫島遺跡、弥生時代中期中葉~中期後葉の 阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡、勝川 遺跡苗田地区、弥生時代後期末~古墳時代前期 前半の廻間遺跡がある。厳密な時期分類がで きていない朝日遺跡を除くと、ほぼ同一時期に おいて多数の竪穴住居が検出されている猫島遺 跡、阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡で は竪穴住居と大型土坑の重複関係が比較的多 くみられ、阿弥陀寺遺跡竪穴住居 SB28、猫島 遺跡 00Aa 区竪穴住居 SB07 等のように 1 棟の 竪穴住居に数基重複・隣接して分布するものが ある。一方当然であるが、建物遺構の検出数が 少ない遺跡では異なる時期と考えられる建物遺 構とは重複がみられるが、ほぼ同一時期におい ては建物遺構と重複する大型土坑は比較的少な く、大型土坑は建物遺構の周囲 10m 程の範囲 に分布する。ただし、猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、 大渕遺跡、一色青海遺跡においても、ほぼ同一 時期に分類される建物遺構との関係では、重複 する大型土坑より、建物遺構の周囲に分布し重 複しない大型土坑の方が多い。

以上の分析からは、大型土坑は竪穴住居等の建物遺構と重複する立地条件において遺跡内に占地し、遺構の検出状況から考えれば、竪穴住居等建物遺構が検出されない(検出できていない)部分(建物遺構の周囲の部分)からも検出される(検出できる)遺構の形態的条件をもつと同時に、相対的には竪穴住居等建物遺構の周囲(周囲 10m 程の範囲)に占地する条件を持

つものと考えられる。弥生時代中期後葉以後に 多く検出される井戸は、朝日遺跡、一色青海遺跡、八王子遺跡、阿弥陀寺遺跡のように旧河道 の際や谷状の窪地等、居住域の縁辺にみられ、 建物遺構の周囲 10m の範囲より遠くに分布す る傾向がある。また弥生時代中期の猫島遺跡、 大渕遺跡、一色青海遺跡、阿弥陀寺遺跡のよう に竪穴住居とほぼ同数程度(それ以上の場合も ある)、検出される状況がある。

墓域に分布する土坑

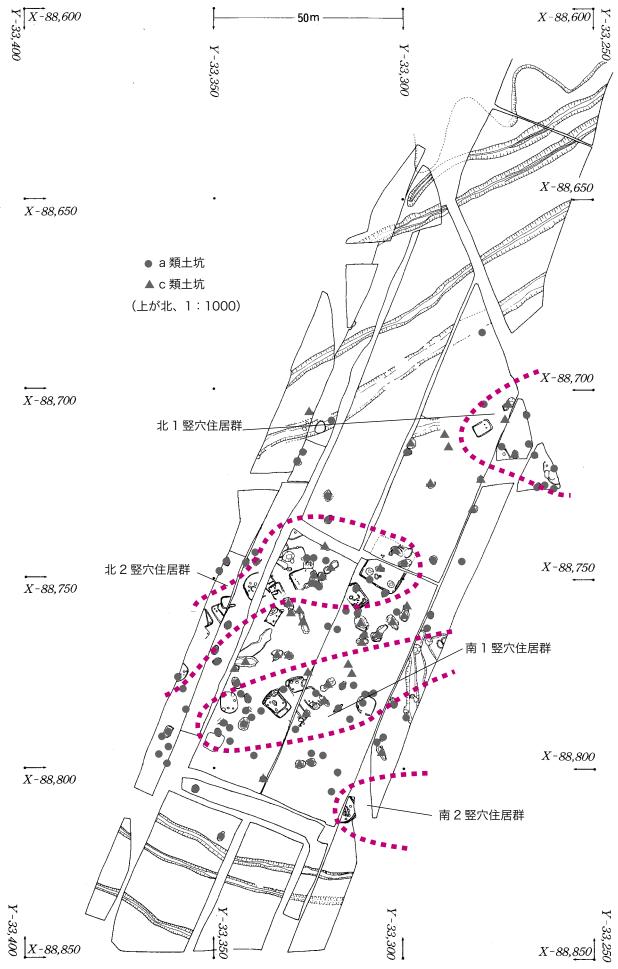
ここでは方形周溝墓・墳丘墓が分布する範囲 を墓域と考え、その範囲内に分布する大型土坑 を取り上げる。ほぼ同一時期において方形周 溝墓・墳丘墓内およびその周辺に分布する大型 土坑が検出されているのは、弥生時代前期頃の 三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉~中 期中葉の猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代中 期後葉の阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡、弥生時 代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺 跡、土田遺跡、西上免遺跡、弥生時代中期前葉 ~古墳時代前期の朝日遺跡等がある。また土坑 墓と考えられるものもある。この中で、明確に 大型土坑と方形周溝墓・墳丘墓と重複関係が認 められるのは、三ツ井遺跡、猫島遺跡、志賀公 園遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前 期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡があ り、弥生時代中期の志賀公園遺跡の一部、弥生 時代後期の山中遺跡、朝日遺跡の一部のように 方形周溝墓・墳丘墓内にある埋葬主体部に関係 する土坑と土器棺に伴う土坑と考えられるもの もあるが、ほぼ同一時期か近い時期において墓 域と居住域が隣接する猫島遺跡、志賀公園遺跡、 廻間遺跡等では、大型土坑が方形周溝墓・墳丘 墓の周溝と重複している場合もあり、土坑の性 格が必ずしも墓域に関連するものではない可能 性がある。西上免遺跡の墳丘墓では大型土坑と 墳丘墓に重複関係が認められるが、報告されて いるように墳丘墓に関連する祭祀等に伴う土坑 の可能性がある。また阿弥陀寺遺跡、一色青海 遺跡では大型土坑(ここでは井戸も含む)との 重複はなく、井戸等が埋没しないまま居住域か ら墓域に変遷する状況を示している可能性が高 い。弥生時代前期頃の三ツ井遺跡では方形周溝 墓と報告される方形状に廻る溝があり、竪穴住 居の周溝とも考えられるが、時期分類が不明であるので、居住域から墓域への変遷する状況を示しているものと考えておきたい。

以上の分析からは、方形周溝墓・墳丘墓の埋葬主体部に関係する土坑、土器棺に伴う土坑を除くと墓域に伴う大型土坑は少ないといえる。

(3) 大型土坑の占地からみた遺跡の復元

ここでは発掘調査報告において土坑埋土の分 類が行われ、居住域が広く調査されている阿弥 陀寺遺跡における弥生時代中期中葉前半の遺構 配置について分析したい。阿弥陀寺遺跡のⅠ期 とされる竪穴住居、掘立柱建物、大型・中型土坑、 溝等の遺構を示したのが図1で、北東から南 西にのびる尾根状微高地上全体に遺構が形成さ れていることがわかる。この中で、竪穴住居が 地形の傾斜に沿って北東から南西に分布する4 群に分かれることがわかる。大型・中型土坑は 一部竪穴住居と重複するものがあるが、大きく は竪穴住居の周辺に分布することが分かる。興 味深いことに、土坑の埋土A類と分層された 単一層からなり分層できない土坑は竪穴住居周 辺に混在して分布するものが多く、埋土C類 と分類された焼土と灰層・炭層が互層になるも のや炭層が顕著にみられる大型・中型土坑は北 1竪穴住居群と北2竪穴住居群の間の地点や北 2竪穴住居群と南1竪穴住居群の間の地点、南 1竪穴住居群と南2竪穴住居群の間になる地点 を中心にやや集まって分布する傾向が見られ、 埋土の状況が異なる二者がやや異なった地点に 分布する。この状況から考えると、弥生時代 中期中葉前半の阿弥陀寺遺跡の人々は、竪穴住 居・掘立柱建物等建物遺構の周囲に大型土坑を 掘り、さらに隣の竪穴住居群との境界部分(竪 穴住居の周囲 10m 程のところ) に掘った大型 土坑の中に焼土・灰層・炭層が埋まっていく(埋 めた?) 行為が行われた指向性が認められるの である。また大型土坑の中でも土器等の遺物が 比較的顕著にみられるのは竪穴住居の近在のも のであり、住居から離れるにつれて土器等の廃 棄が少なくなる傾向がある様に思われる。

同様な状況は弥生時代中期後葉の一色青海遺跡 95Ca 区・95Cb 区・96A 区にもみられる。 また、弥生時代中期中葉~後葉の西上免遺跡に



おいて指摘されているように、地点により分布 する土坑の特徴が異なる状況も同様な傾向を示 しているのかもしれない。

3 東海地域における大型土坑の展開

それでは先に触れたような状況が、異なる条件(立地、地域等)の遺跡においてもみられるであろうか。弥生時代における東海地域の大型土坑の有無を検討したのが表1である。

(1) 遺跡立地と時期的変遷

沖積微高地(氾濫原地帯、谷底平野、扇状地 縁辺沖積微高地を含む) に立地する遺跡で大型 土坑が10基以上検出されている遺跡は、愛知 県では弥生時代前期の月縄手遺跡・山中遺跡・ 三ツ井遺跡、弥生時代前期・中期前葉・中期中 葉前半・中期中葉後半・後葉・後期の朝日遺跡、 弥生時代中期中葉後半・後期・古墳時代前期初 頭の八王子遺跡、弥生時代中期前葉~中期中葉 の志賀公園遺跡・猫島遺跡、弥生時代中期前葉 ~中期後葉の西上免遺跡、弥生時代中期中葉前 半・中葉後半・中期後葉・後期の阿弥陀寺遺跡、 弥生時代中期後葉の大渕遺跡・一色青海遺跡・ 勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期~古墳時代前 期初頭の山中遺跡、弥生時代後期末~古墳時代 前期初頭の廻間遺跡がある。三重県では弥生時 代前期の村竹コノ遺跡、弥生時代中期前葉の蔵 田遺跡、弥生時代中期後半の下川原遺跡、弥生 時代後期の堀町遺跡がある。この他10基以上 ある可能性が高い遺跡は弥生時代前期の愛知県 松河戸遺跡、弥生時代中期の三重県納所遺跡が ある。

洪積台地(丘陵、河岸段丘を含む)の遺跡では愛知県では弥生時代後期~古墳時代前期初頭の見晴台遺跡、三重県では、弥生時代中期前葉~中葉の東庄内B遺跡、弥生時代中期中葉前半の和遅野遺跡、弥生時代中期(中葉主体)の片野遺跡、弥生時代中期後葉の莵上遺跡・永井遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡・小谷赤坂遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代中期中葉前半の三重県古里遺跡がある。

以上の弥生時代前期から古墳時代前期初頭の

遺跡において、大型土坑の多くつくられる遺跡 は沖積微高地に立地する遺跡に多く、洪積台地 に立地する遺跡は少ない傾向がある。大型土坑 の時間的変遷では、弥生時代前期には既に多く 掘られており、以後弥生時代中期後葉の遺跡で 多数検出されている。弥生時代後期~古墳時代 初頭においては、先に分析した墓域に関連する 山中遺跡、西上免遺跡、居住域に関連する廻間 遺跡、朝日遺跡、八王子遺跡等、尾張地域の 沖積地において比較的多数の大型土坑がみられ るが、他の地域においては竪穴住居等の遺構の あり方から考えると大型土坑が少ない傾向があ る。ただし、三重県辻子遺跡のように沖積地の 遺跡や洪積台地に立地する弥生時代後期の環濠 集落である小谷赤坂遺跡では比較的多くの大型 土坑がみられ、異なる状況がある点は留意され る。

(2) 洪積台地上の弥生時代遺跡にみられる 大型土坑

前節において、東海地域における弥生時代の 大型土坑について、洪積台地上に立地する遺跡 に少ない傾向を指摘した。この傾向は大きくは 変わらないと思われるが、洪積台地上の遺跡に おいても沖積微高地上に立地する遺跡と同様に 大型土坑が掘られることは重要である。

大型土坑の遺跡内における占地を検討する と、竪穴住居や掘立柱建物等の建物遺構と重複 関係があるものは、弥生時代中期後葉の愛知県 橋良遺跡において2基、弥生時代後期~古墳 時代前期初頭の見晴台遺跡で数基、南山畑遺跡 で1基、三重県では、弥生時代中期前葉~中 葉の東庄内 B 遺跡で 2 基 (1 棟の竪穴住居に)、 弥生時代中期後葉の莵上遺跡において5基(1m 内外に隣接するものが8基)、弥生時代後期小 谷赤坂遺跡において2基、古墳時代前期後半 の三重県新畑遺跡において3基(竪穴住居2 棟に)あるだけで、大型土坑は建物遺構の周囲 に分布し、重複する例がある遺跡は比較的多数 の竪穴住居が検出されている遺跡に限られる。 また墓域との関連でも弥生時代中期(中葉主体) の片野遺跡において、時期は不明であるが方形 周溝墓と重複する関係にある大型土坑の例があ

るのみで、先に触れた尾張地域の大型土坑の占 地の傾向がより明瞭に確認できる。

形態的特徴を細かく分析できていないが、楕円形から隅丸長方形状の平面形態で断面丸底状の様々な形態をしており、規模も尾張地域の状況と類似するように思われる。

(3) 縄文時代晩期の遺跡にある大型土坑

弥生時代前期の東海地域において、すでに今 回分析したような大型土坑が存在することは明 らかで、縄文時代晩期にさかのぼって存在する 可能性も高い。縄文時代後期~晩期の岐阜県西 田遺跡や愛知県三斗目遺跡、縄文時代晩期の三 重県蛇亀橋遺跡では、今回の大型土坑に分類で きる土坑が竪穴住居周辺に分布する傾向がみら れる。一方、愛知県牛牧遺跡では竪穴住居の周 辺に土坑墓とされる大型土坑が多数みられ、愛 知県麻生田大橋遺跡では土器棺墓の分布と径 1.0m 前後の平面円形状、断面やや袋状の形態 が復元できる土坑が並行する時期に存在する状 況が見られる。また三重県森添遺跡においては 大型土坑が住居跡、配石遺構、焼土面などとと もに多数あり、時期的変遷の多様さと同時に重 複関係も多数みられる。

東海地域における縄文時代晩期の遺跡では、 大型土坑が平面楕円形状断面丸底状のものと平 面円形状断面袋状のものに大きく分類でき、前 者は土坑墓と分類されるものが多く、居住域の 内部から近在に分布する可能性がある。

4 まとめ

以上の分析において、東海地域弥生時代の遺跡における大型土坑の主に占地の状況について分析したが、遺跡の居住域内部において竪穴住居等建物遺構と分布するものの、竪穴住居との重複は少ないことは明らかで、竪穴住居を始めとする建物遺構が存在する地点が人間活動の拠点とするならば、大型土坑が分布する地点はその縁辺といえる。ここではさらに主に居住域に分布する大型土坑の特徴について、大型土坑の占地から朝日遺跡と莵上遺跡を分析し、その補足をしてまとめとしたい。

(1) 大型土坑のない地点

朝日遺跡の南居住域において基盤砂層上に弥 生時代の遺物包含層を堆積しない黒色土の堆積 が確認される地点が数カ所ある。これらの部分 は弥生時代の朝日遺跡において遺構の掘削が地 中深くに及ばなかった地点であり、掘削されな かった可能性が高い場所である。既に指摘され ているように遺跡南居住域を縦断する大溝等の 土手状の遺構(堆積)が存在した可能性のため に遺構が形成されなかった可能性もあるが、そ の他にもこのような地点が散在することから考 えると、今回詳細な分析はできないが弥生時代 の一定期間窪地であった可能性が高い地点と考 えられる。したがって朝日遺跡の南居住域内の 場合、竪穴住居を始めとする土坑(大型土坑か ら小柱穴まで)・溝などがどのような状態で変 遷していったか細かな変遷をたどることは困難 であるが、大型土坑が環濠に囲まれた居住域の 内部においても、窪地状になる地点には分布せ ず、窪地の周辺に分布する状況がみられる。こ の状況は性質の異なる可能性があるが、弥生時 代遺跡の集落外側の窪地・谷・後背湿地におい て大型土坑が分布しない状況と類似する。

また集落域が比較的広範囲に調査された弥生 時代中期後葉の莵上遺跡においては、居住域の 状態が復元されており、大型掘立柱建物が検出 された地点においてはあまり大型土坑が分布せ ず、反対に幅 20m 程の谷である ST802 の延 長上にあたる窪地状になる地点にまとまった数 の大型土坑が検出されており、周囲の丘陵微高 地状に立地する竪穴住居群から周囲 10m 程の 中に入る。一定の継続期間をもつ遺跡であり、 細かな遺構変遷は不明であるが、報告書の分析 においては、建物の規模・形態、出土遺物の分 布も鑑み、大型竪穴住居と大型掘立柱建物を中 心とする区域を「集落中枢部」と位置付け、谷 ST802 を囲む丘陵微高地の竪穴住居群を含む 区域を「一般成員居住区・工房区」として役割 分担が存在したことを指摘されている。先に述 べた竪穴住居が形成される空間に大型土坑が少 ない傾向のより明確に区分された状態を莵上遺 跡の大型竪穴住居と大型掘立柱建物が存在する 周囲の地点において形成されていたものと考え

られる。

(2) 集落研究のための評価

以上の分析から導き出された大型土坑の占地のあり方を模式的にあらわしたのが図2である。居住域内部において竪穴住居の周囲10m程の範囲を中心に掘られ、隣接する竪穴住居群との中程に火の痕跡のある堆積物が埋まる行為が行われた。そして住居の周囲20mの範囲でほとんどが掘られ、周縁やその外縁の大型土坑として掘られるものとして井戸や墓域の周縁にある土坑墓がある。このような状況が認められるならば、尾張地域の沖積微高地にみられる大型土坑が竪穴住居等と重複する地点が多い遺跡

は、居住域における地点(役割の違う場所)の 変換が行われた痕跡を残すものと考えられ、細 かな遺跡変遷が究明できるならばより多様な遺 構変遷が存在した可能性が高いものと考えられ る。またこのような状況が沖積微高地に立地す る尾張地域の弥生時代における集落構造の特徴 ともいえないであろうか。一方で、洪積台地に 立地する弥生時代の集落において、大型土坑が 掘られない理由(単にゴミとなった遺物を集落 外に持ち出すのか等)についても考えていく必 要があるように思われる。今後の課題としたい。

本論を作成するにあたり、木野本和之氏・川 北秀実・水野多栄氏のご教授、ご協力を得た。 記して感謝の意としたい。

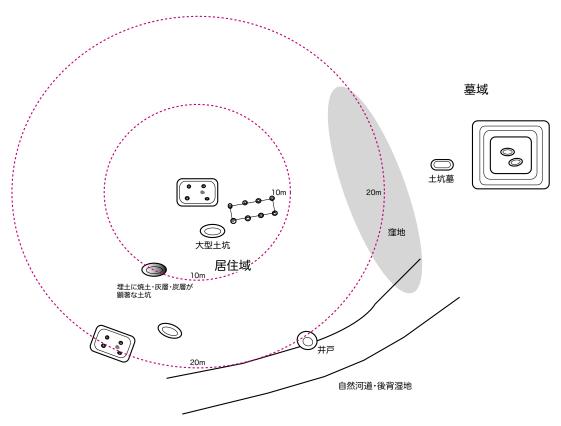


図2 弥生時代における大型土坑の占地

参考文献

本論では、報告書による遺跡事例の分析についての研究を取り上げていない。今後他地域における各遺跡の分析事例を検討していく必要があるものと思われる。尚、今回取り上げた報告書の引用文献は各遺跡の遺構データとともに表1において記述した。

石野博信 1967「貯蔵施設の貯蔵施設」『関西大学考古学研究年報 I』。

武末純一1991「倉庫の管理主体ー北九州の弥生拠点集落例からー」『古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念事業会。

川上洋一 1995「弥生時代の墓地における土器出土状況の分析ー北部九州と吉備を中心にして一」『考古学研究』第 42 巻第 2 号、考古学研究会。

	当名	市町村名	遺跡名	立地	調香回費	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑。備考	文献
14.0 14.0	計	1	三ツ井遺跡	并需務測	12100	縄文時代後期	0棟(報告では)	4.		『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人
	普		松原 目末三:	型和標狀	#J300	編文時代後期~晚期		930		作品的機1993(11年日・三本校建誌)「寮西県道職大化はイケー調査報告書籍47集」財団氷人敷西県連購大化けセンター
1.2. 1.2.		名古屬中	牛牧遺跡	型 甲基 洪	1250	編文時代後期~晚期		第22	遺跡の時期幅が大きく、大型土坑の大部分に土壌墓の可能 性が指摘されている。	添名 発展 2001(牛牧論等) 関丸県指膜大化はセンター調査機能養発95集。
19 19 19 19 19 19 19 19	账			米雪 也是	#3800	編文時代後期~晚期			大型土坑10點が住居と重複してる。その他は住居の周辺 に分布する。	
67.0 Characteristic State Francisco Secretario Secret	赔	名古屋市	ı	X積台地線22		編文時代晚期				P藤厚史・野口泰子1993「見晴台進跡発掘調査報告書ー遺構編ー」名古屋市見晴台考古資料館
Exception	账		泰 泰 泰 泰 泰	河岸段丘中位面	#12000	編文時代晚期		5	大型土坑でSK28は四地、SK02と05は海石多数出土。土 が右柱間と職扱する位置に多いが、大型土坑は重複してい あものが多い。他に接上面40カ所、配石群6群。道構の略 間幅が大きい。	後級次,衛村條治1988(蔣添德除飛掘調查帳帳) 废会町道除調査会
1972 1974-1986 1970 1970-1986 19	账	ļ	蛇亀橋遺跡A地区	低丘酸脂谷内锁 基	₽ 884	縄文時代晚期後半	竪穴住居2棟		他、大型の土坑25 基程あり(遺構と報告されていない)。	f田洋1981「志郡鎮野町蛇亀橋遺跡」『昭和56年度園場整備事業地域理觀文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
140 147 140 14	账	1	蛇亀橋遺跡B地区	6.丘陵開谷内徽	1 800	織文時代晚期後半		L器棺墓3基		f田洋1981 「一志郡爐野町蛇亀塘進跡」『昭和56年度圃場整備專業地域埋職文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
11 12 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15	些	7	三ツ井遺跡	型恒能都共	12100			以上 (報告で1 は6)	大型土坑は断面袋状のもの2~3基あり。中型土坑は石器埋納土坑として戦告の2基の内1つ。	日中年明・強御回編「ニン井道路」「愛知張坦殿文化はセンター調査帳告書第87集」別団法人 愛丸県埋蔵文化がセンター
19 19 19 19 19 19 19 19	账		麻生田大橋遺跡	米優市地	00960#	和文時代晚期後半~弥生時代中期初 頭		12基以上	縄文時代原期後半が主体、大型土坑の大部分は断面接状境 なる円形土坑で。竪穴住居との重複はないが、土器棺墓と は混在している。	学井俊則編1981「第年田大橋道路)「摩刘県祖副文化財センター顕著衛告書第21集」財団法人愛知県祖職文化財センター、前田清彦編16 「毎年田大衛道師永振副皇後日報」第11冊教育委員会
1992 1992 1992 1992 1992 1993	账	名古屋市	月縄手遺跡	光纖緩測法	185	弥生時代前期		2		5日訓・宮腰健司他1990「月縄手遺跡・貴生町遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第12集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
1977 1978 1985 1974	账		月縄手遺跡川	华雪赛测	320					■上昇編1994「貴生町遺跡Ⅱ・Ⅲ、月縄手遺跡Ⅱ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第55集』財団法人 - 愛知県埋蔵文化財センター
1977 1972-1922-1922 1974 1972-1922-1922 1974-1922-1922-1922-1922-1922-1922-1922-192	账		八王子遺跡	型電腦攤升	23740	弥生時代前期	掘			自上昇編2001「八王子道路」『愛知県振護文化防センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財セア フー
1987 1988	账		野口北出遺跡	冶撒痰咖 基	1274	弥生時代前期				b條献示2000「野口·北出遺跡発掘調査報告書」稲沢市福祉保健節·稲沢市内遺跡発掘調査委員会
1992年 1985年 1	些	l	鐘空遺跡	河岸段丘	#01000	弥生時代前期			中型土坑は往居と重複しない。	F村登良男編1981「鐘空遠跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5-3』松阪市教育委員会
	些	T1	上寺遺跡	河岸段丘	約5500	弥生時代前期				F 村登良男編1981「上寺遺跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5-2』松阪市教育委員会
2	ı		小谷赤板遺跡(第8次)		2560	弥生時代前期				
日本日 日本	些		小谷赤板遺跡(第6次·7次)		3100	弥生時代前期				P藤裕偉編2005「天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告V」『三重県埋置文化財調査報告259』三重県埋職文化財センター
画報的 中央性機能 3000 別生時代期間 方限性能は計算(513) 2以上 人工生在は2002の24月。中や流い 四日市所、各井瀬跡 中地上 約220 別220 1 ~ 555 0 大型土坑は2002の24月。中や流い 一百市 二十月瀬跡 中橋北山 1210 別420 2 1 2 1 2 一百市 山中瀬跡 中橋成地 4800 (42k と 当生時代前期) 原産品間(環境化) 2 1 2 1 2 一百市 山中瀬跡 中橋成地 500 (42k と 当年時代前期) 原産品間(環境化) 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 4 2 1 2 4 2 1 2 4 2 1 2 4 2 1 2 4 2 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 3 3	账	四日市市	大谷遺跡	洪雪 中 居 中 居	#927.00	弥生時代前期	رت پ			「法国労命1966(大会滅海安議開業養産市業―人起反、日起区」。「四日市村職等な行役請募務的2、四日市市教育業員会・日日市選挙を与る会、「法国労り1967、大会議等政務開業表包」「七色区の通常」、「四日市市製業文化的開業表包」「日日市市教育委員」。「日日市市教育委員会、伊藤洋1977「大会議部党議員報告目」「日日市政会会会、伊藤洋2077(大会議部党議員を発出して8月の通常を表し、「日日市日本政会会会会、「日日市日本政会会会会、「日日市日本政会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会
四百市市 4月適節 台地上 12100 当生時代前期 DQ業 17-5番 0 大型土均は、形態周減能である。切り合いもある。 一当市 10十通節 沖橋旅港地 4200 (4次と %生時代前期) 数化局部域間 2 1 Dp. 42 単位工程 42 1 Dp. 42 単位工程 42 1 Dp. 42 単位工程 42<	些	1	中之圧過跡	三角州	3000	弥生時代前期		以上		5本鋭次1972「中之庄遺跡発掘調査報告10」三重県教育委員会
一部作 二少井道砂 平橋南高地 12100 労生時代前期十 整代性医が駆した。方形両端部2~4 55以上 4以上 4以上 20 一部作 11日本道砂 平橋南高地 4800 (4次と 労生時代前期) 要な上時代前期 2 1 2 1 2 一部作 11日本道砂 平橋南高地 4800 (4次と 労生時代前期) 受工時代前期 0 2 1 2 1 2 一部作 11日本道砂 子橋原の指導 4800 (4次と 労生時代前期 9 2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2<		四日市市	永井遺跡	台地上	#32800				大型土坑はSD02の北側。やや浅い。	查報告」四日市市教育委員会
一部件 小職務高地 4800 (42と 発生時代期間) 90業 2 1 2<	当		三ツ井道跡	华震缓测法	12100	,	方形周溝塞3~4			『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人
一室作 山中道像 半層微高地 4900 (4次と 9年時代前期2 BCME 194 (1967 (2) 5 分析 (1967 (2) 5 公共 は (1967 (2) 4 年間 (2) 2 人工 (2) <t< td=""><td>些</td><td>l</td><td>/ 原子 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原</td><td>到 經 經 縣 共</td><td>4800 (4次と 5次併せて)</td><td>: 弥生時代前期1</td><td>举0</td><td></td><td></td><td>K部信簿編1992「山中遊路」「愛知県地震文化財センター調査報告書等40集」財団法人 - 愛知県過震文化財センター</td></t<>	些	l	/ 原子 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原 / 原	到 經 經 縣 共	4800 (4次と 5次併せて)	: 弥生時代前期1	举0			K部信簿編1992「山中遊路」「愛知県地震文化財センター調査報告書等40集」財団法人 - 愛知県過震文化財センター
五級市 仲電内通路 丘腹の裾部 1500 弥生時代前期後半 0			過票中 中	對框態膨大	4800 (4次と5次併せて)		#	0	大型土坑は、方形周溝墓に隣接して3基、住居に階接して 2基、瀬舎付近に基本る。住居に重接する同様はがある のは8/31のか。中型のSK94818194の土坑で、横万形 石屋。建め「増削されている。中型土坑、小型土坑、(Pi) は住居と重複、接する住居において後出されている。	
松阪市 付打コノ連節 第3次 予電液高地 1500 第生時代前期後半 00種 23 1 120目に環境もからも分類 20分組目と重複もかり、現在に関連を表現し、20分割 20分組目 20分割 20分組 20分組 20分組 20分組 20分組 20分組 20分組 20分組	懸	l	仲垣内遺跡	丘陵の裾部	400		0棟	<u></u>	•	- 重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財報告』
時間 金剛板道線 河岸段左接辺 約900 第4年代前期新段階 20 20 30 30 30 30 30 30			村竹コノ遺跡 第3次		1500			<u></u>	北側に職業がめる名外側、竪穴柱居と重雑もあり、湖在。 住屋の重雑は少れ、竪穴柱居の5回間はピットも多く、 土坑る指在、大型土坑は接頭のものもある可能性をか。 坑穴はいだッドが多数あり、内側に向いており、木材が出 土する部分あり。木材が立てられていた?	■県理職文化的センター2005 「- 施四道42号/イバス松阪・多気み組織者ニューズNo.19」三重県理職文化的センターニ 三重県理職文化的センター2005 「村竹コノ道路(第3次)み組御権現地総称会資料」三重県理職文化財センター
五板町 上の山道線 単位丘像上 約2400 安生時代前期系向階 屋が住屋1棟 2 2 2 2 2 2 2 2 2	账	ļ	金剛板遺跡	河岸段丘緣辺	006Q#		00	0		LI沢義貴·谷本説次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
超目 4	三	1	上の山遺跡	低位丘陵上	約2400	掘	l'''			L村安生1992「上の山遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告103』三重県埋蔵文化財センター
一部市 八工子施等 予報 3 予用 油米里店 第10000 等生場代中原書類 股入社園各種(周囲)十44種(周囲)十44種(周囲) 1 (周囲) 10 (周囲) 2 (周囲) 2 (周囲) 1 (日間) 2 (周囲)	普		阿弥陀寺遺跡	型順級攤块	#015000		掘	2		1頭立人第1980「阿弥陀寺道路」「腹紅泉連膜文化はセンター調査報告書祭11簿」財団法人・愛近泉塩膜文化財センター
選挙的性 現日運移 予量後高後 1950000 寄生時代中語前葉 1950000 寄生時代中語前葉 1950000 寄生時代中語前葉 1950000 1950 19	豐		八王子遺跡	半機欲高地	23740					直上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財セ
	些	型屈素無	朝日遺跡	光纖痰 酮毒	#50000		竪穴住居4棟(西部) + 444棟(南部) + 15棟(東部) + 5棟(北部)、狙立柱建物 2棟(東部)		. 規模不明土坑が、33 (南部) + 1 (北部)。	

19 19 19 19 19 19 19 19	海名	市町村名、遺跡名	,遺跡名	和口	調査面積	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑(種地	文献
18 18 18 18 18 18 18 18	三重県	Т	平田遺跡 西支群	丘陵上	ļ	弥生時代中期前葉		ē	,		爭勝英晃,竹内英昭1987『平田遺跡群』安濃町遺跡調査会
1999 1-1-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2	断画三		藏田遺跡	報學夫	15710	弥生時代中期前黨	物14棟、柱列4列、大	Ε		大型土坑の内1基は土坑墓の可能性あり。掘立柱建物と重 復するもの2基。他は建物周囲5~20mの範囲にある。	大山池之・昭田郷功徳1990「瀬田路際杂雅調査銀街」『一議兵建展文化党計画を集中112-13』 三重泉連議文化がセンター
	愛知県	1		米雪山地	0006	弥生時代中期前半		1以上			「名古屋城三の丸遺跡(I)」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人
The control	三重県			河岸段丘低位面	約7000	弥生時代中期前半		0	0		高見宣雄・岩中淳「伊勢市佐八町中/垣外遺跡」三重県教育委員会
	製知県		猫島遺跡	圆状枯末翳、并 發高枯 發高枯	# #32000	弥生時代中期前黨~中期中黨	竪穴住居30棟、掘立柱建物2棟、方 形間溝墓15基、溝5条、柵列8	37以上	1,	大型土坑は土壌墓と製告されるものを含む。竪穴住居との 重複あり。方形周溝墓との重複では方形周溝墓の周溝に切 られている。	米米RXS編2003 (ソルス・アンター) 原名 (大学 アンター) 原産 (大学 アンター) 原名 (大学 アンター) (大学 アンター
CATCH STATEMENT PROPRIES AND STATEMENT	愛知県	1		報應經歷共	14200 (97 E1200)	E 弥生時代中期前葉~中期中葉	,	17	ω	大型土坑の内1基はSZ04・05の内部主体。大型土坑は竪穴住居の周辺と方形周溝墓と重複している。	5.井宏幸編2001「志賀公園道路」『愛知県理議文化はセンター調査報告書第90集」財団法人 壁知県理議文化財センター
1987 1987	愛知県	名古屋市	5 志賀公園遺跡	型眶態響束	14200 (98 区900)			17		竪穴住居と方形周溝墓と混在。	朱井松春職2001 「花質公園道路」「敷虹県連膜X (GP センター調査機由業券90票」財団法人 駿丸県連購文化財センター
	愛知県	† · · ·	八王子遺跡	共働緩剛計	23740	弥生時代中期前黨~中期中黨	竪穴住居2棟、溝3条		十明		
	画画		東庄内B遺跡	米魯市基	16125	弥生時代中期前黨~中期中黨	8棟、土器棺墓1基、、)、压道明他1970 「現在内B滅粉」「現名阪道路鴉魔文化財調查報告」日本道路公园名古國文社,三篇県教育委員会
1997 12-2 2000 12-2 42 12	愛知県	l	T 阿弥陀寺遺跡	半 瓣緩剛格	#15000	弥生時代中期中葉	竪穴住居43棟、溝1条	.72	17		『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人
	整知県	ļ	八王子遺跡	并衝突両法	23740	弥生時代中期中葉前半		12	ļ		後上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査戦告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
1 日	愛知県	l	総製田北口編	對迴雞鄰 共	1274	弥生時代中期中葉前半		平所9	0		化條献示2000「野口·北出遺跡発掘調查報告書」稲沢市福祉保健節·稲沢市内遺跡発掘調査委員会
日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本 日本日本日本日本 日本日本日本日本日本 日本日本日本日本日本日本 日本日本日本日本日本日本日本日本 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	愛知県		明日濃跡	對帽鄉鄉大	#150000	弥生時代中期中葉前半		5 (西部) 106(南部) 2 (東部) 8 (北部)	1 (西勤) 38 (南部) 0 (東部) 0 (北部)	不明土坊が、1 (西路) + 51 (南路) + 7 (北	后期立人編1991「親日遺跡」「駿知県連鵬文化材センター調査報告書第30編」財団法人駿加県連職文化材センター
新型	画	l	和選野遺跡	河岸段丘緣辺	288	弥生時代中期中葉前半		20		大型土坑は溝SD13・18を含む。竪穴住居と重複しない。 司辺に分布。	他并述—1975 「克波等語等無關重義的」由山町教育教員余
	三重県	ı	古里遺跡C地区	洪積台地	#33000	弥生時代中期中葉前半		8以上	0		
報酬目標 報酬目標 1 (目前) 2 (日前) 2 (日前) <td>愛知県</td> <td>r</td> <td>丁森南遺跡</td> <td>穀滬級攤庆</td> <td>1950 (E~I ⊠のみ)</td> <td>3 公生時代中期中葉前半 弥生時代中期中葉後半</td> <td></td> <td>3 (EE)</td> <td></td> <td>ļ</td> <td>長島広・安藤義弘・加廉女信1990「英郡通跡発掘調査報告書」「甚目寺町文化砂調査報告!」更知県海部部基目寺町教育委員会</td>	愛知県	r	丁森南遺跡	穀滬級攤庆	1950 (E~I ⊠のみ)	3 公生時代中期中葉前半 弥生時代中期中葉後半		3 (EE)		ļ	長島広・安藤義弘・加廉女信1990「英郡通跡発掘調査報告書」「甚目寺町文化砂調査報告!」更知県海部部基目寺町教育委員会
実際加速 事業的 1500 当時保存 1500 当時保存 100 不利 不利 松阪市 土産業施 70 10 0 <t< td=""><td>愛知県</td><td></td><td>4月一連路</td><td>對極級艦大</td><td>#350000</td><td>弥生時代中期中黨</td><td></td><td>14 (西部) 37 (南部) 0 (東部) 2 (北部)</td><td>3 (西部) 32 (南部) 0 (東部) 7 (北행)</td><td>不明土坑が、3(西部)+26(南部)+2(東部)+1(北</td><td>丘瀬江人瀬1981「銀日道際」「寛凶県道職文代材センター調業報企業第30簿」財団派人殷凶県道職文化財センター</td></t<>	愛知県		4月一連路	對極級艦大	#350000	弥生時代中期中黨		14 (西部) 37 (南部) 0 (東部) 2 (北部)	3 (西部) 32 (南部) 0 (東部) 7 (北행)	不明土坑が、3(西部)+26(南部)+2(東部)+1(北	丘瀬江人瀬1981「銀日道際」「寛凶県道職文代材センター調業報企業第30簿」財団派人殷凶県道職文化財センター
	岐阜県	l	57.牧野小山遺跡	河岸段丘	1 500	- 弥生時代中期中葉		4	不明		亚村弘他1973「牧野小山遺跡」岐阜県教育委員会・美濃加茂市教育委員会
時間日 金剛能電腦的 河岸原石藤辺 1980 30 10 0	三重県	1	上寺遺跡	河岸段丘	約5500	弥生時代中期中葉	竪穴住居1棟		0		
5条件 12 12 13 13 14 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 15	三重県	ı	金剛板遺跡	河岸段丘緣辺	\$1900	弥生時代中期中葉	方形周溝墓2基		0		U沢養貴·谷本説次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
会類市 備・胎房遺跡と地区の区 両状地 200 今年時代中期中葉後半 医欠性層乙酸 開発 1 (四部) 大型土坑は石房の屋口のm、重視しない。 清州市船 前日遺跡 日日遺跡 中職務局と地区の区 両上が直接 が生房中化中間平葉後半 医欠性層乙酸 上間 (日本間) (日本日間) (日本日間) <th< td=""><td>三重県</td><td></td><td>ı</td><td>洪積台地</td><td>#32680</td><td>弥生時代中期中葉</td><td></td><td>o</td><td>0</td><td></td><td></td></th<>	三重県		ı	洪積台地	#32680	弥生時代中期中葉		o	0		
清州円	三重県		ı	区 扇状地	200	弥生時代中期中葉	竪穴住居1棟	L.	 		刊版仁「名張市赤目町櫃・柏原遺跡」三重県教育委員会
重用作 上位股石面販売地 30 30 生態代中期中震後半、中部後襲 原列路 4 2 土坑住居の周辺にある。重複しない。 磐田市 旧部路 沖積液高地 1.2500 30 生態代中期中葉後半、中部後襲 万所別編集13基 7 4 土坑住住居の周辺にある。重複しない。 6とんと重複し 名古都市 志園公園園路 沖積液流地 1.2500 30 生態代中期中葉後半、中部後襲 万所周編第13基 7 4 大型上坑丘片の内の基本の内でする。ほとんと重複し 名古都市 西井金閣 1.4200 30 生態代中期中葉ペー即後襲 2 大型上坑口上海県東の海内の上海の内の上海の中の砂を車が作り 5 7 4 大型上坑口上海県内の地の土地の内の重体の可能性がある。 中間ではおりた。1 年上坑口の大路は高かりの中間できる。1 年上坑上海を表あるが下明。1 年上が日上海県内でいない。 中間が月が原産業とおっている可能性がある。1 年間を設定 3 5 大型上坑口上海県内でいない。 上庭と間でしているい。1 年間とていない。 2 土坑上台を表あるが下明。1 年間を表していない。 中間が月が原産業をあるが下明。1 年間を表しているいる。 2 大型上坑は上海県上海県とのの 大型上坑は上海県上地海とい。 2 2 大型上坑は上海県内のの 大型上坑は上海県内ののとは上海県とのの 大型上坑は上海県とのの 大型上坑は上海県ののとの 大型上坑は上海県とのの 3 4 大型上坑は松田のの 大型上坑は上海県ののの 大型上坑は上海のたるは上海との。 3 3 5 大型上坑は上海のの 大型上坑は上海のたる。 3 3 5 大型上坑は長のたる。 2 本地には 大型上坑は上海のの 3 4 大型上坑は一部の 2 土坑ち谷の 3 3 4 大型上坑は一部の 3 3 4 大型上坑は一部の 3 3 5 大型上坑は一部の 3 3 4 大型上坑は一部の 3 3	愛知県	型宙系無	朝日遺跡	型電腦		弥生時代中期中葉後半					日瀬江人瀬1981「銀日道際」「駿呂泉道瀾文(坊はセンター調雅義作職第30簿」財団派人駿呂県道職文化財センター
## 回日市	三種県		上地山遺跡	上位段丘面微高地		弥生時代中期中葉後半		4	2		溴義次1985 「上地山 <u>進</u> 跡発掘調查報告書」玉城町教育委員会
合工監修 第2公 (2016) 第4 (14200 (2016) 第4 (14200)	愛知県		川原遺跡	型帽猴攤块	12500	弥生時代中期中葉後半~中期後葉	土獺	14以上		間に分布する。	『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集』財団法人
原西市 四上免滅的 洋南線高地 10568 39生時代中期年第~中期後葉 20版 20	愛知県			對極級擊升	14200 (98 E1000)				4	大型土坑の内3基は方形周清墓の内部主体の可能性があり、2基は方形周清墓の清の可能性あり。中型土坑は掘立住建物の周辺にある。	外井汽李編2001 「お買公園道路」『菱町県垣職犬代財センター酒査報告書第90集』財団法人 髪虹県基臓犬化財センター
施能市 促進的 6位位度左接辺 4500 39生時代中期年票~中期後票 竪穴住居4機 超立柱建物1機 1 大型土坑ら多数あるが不明。重複していない。 名張市	愛知県		西上免遺跡	報題を表	10568	弥生時代中期中葉~中期後葉		13	2		赤塚次郎編1997「西上免遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集」財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
各張市 期所組修 原政組修 第生時代中期保護へ中間後襲主体 歴史住居4機 4 大型土板のPOMEは基準とおれている可能性額い。整次 津市 集計道除 原道自然総務機高、試組がリッド 砂生時代中期後半 0R 2 住居と重複しない。廃疫して分布する。 諸目寺町 大瀬道除 地 15 次生時代中期後半 BYAE房区機 方形区商連機 49 0 大型土板は整穴柱間の周辺に多いが維持もあり (17 着日寺町 大瀬道藤 断 100000 労生時代中期後半 SYAE房区機 方形区商連機 49 0 大型土板は整穴柱間の周辺に多いが維わり (17 着日井市 勝川道路 上屋敷地区 35 市側方形区面通線SOUとは重視していない。 本型上板は万形原編集をは正成していない。 着日井市 勝川道路 原規上地区 沙生時代中期後半 なし 1 大型土板は万形原列業とは確していない。	三重県	l1	起遺跡	低位段丘線辺	4500	弥生時代中期中葉~中期後葉	竪穴住居11棟、掘立柱建物1棟			土坑も多数あるが不明。重複していない。	炼前给1983「鈴鹿市安源町起A遺跡」『昭和57年度農業基盤整備事業地域理藏文化財発組調查報告』
連告 電子運動 予連目が置からいる 2 大型車が住屋の高速に多いが重要もあり(17 番目が町 大型運動 10000 労生時代中部後半 SXOI、井下3番 49 0 大型土坑は整水柱屋の周辺に多いが重要もあり(17 番目が町 大型車が付き返掘機器が印とは重要しない。 8XOI、井下3番 あり。前側が形区面機器がついたい。 あり。前側が形区面機能がついたいない。 春日井市 御川道路・圧電影地区 次モ時代中部後半 なし 大型土坑はが原用運搬とは重視していない。 春日井市 御川道路・原理を地区 次生時代中部後半 なし 大型土坑はが原用運搬とは重視していない。	三重県		御所垣内遺跡	極	#32000		竪穴住居4棟	4		大型土坑の内2基は土壌墓とされている可能性高い。竪穴 住居と重複しない。隣接して分布する。	K口昌也,門田了三1984(蘭所堀内道路)名張布教育委員会
古目寺町 大御道幹 宇衛病治地 1910000 沙生時代中間後半 WOVIERFOR地 549 0 大型土柱はWOVIERFOR地である 25 18億万形区面通線SOL1とは重定しない。	三重県			河道自然堤防徽副地	試組グリットNo.15		0棟	2			亀井遺跡」『昭和47年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報
参日井市 嬰川道節 上屋敷地区 安生時代中部後半 方形周溝墓22基 大型土坑は方形周溝票とは重複していない。 春日井市 嬰川道節 雨寒止地区 次生草代中部後半 なし 大型土坑5K594	愛知県			発動変動を	#210000	弥生時代中期後半		49	0	(17	『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集』財団法人
- 参生時代中期後半 なし 1 大型士的SK594 なし なし プローロ (大型土的SK594 なし) (大型土的SK594 なし) (大型土物SK594 なし) (大型土物SK594 なし) (大型土物SK594 ない) (大型土物・ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	愛知県		5 勝川遺跡 上屋敷地区	×		弥生時代中期後半	方形周溝墓22基	2			本塚次郎編1984「勝川」『愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書第1集』財団法人愛知県教育サービスセンター、松原隆治編1988 Fastillabs Paskhina massa-yustals, 7 maskan festan et the past maskan massa-yustals and statement of the past maskan past massa the past massa past
	聚知県		5 勝川遺跡 南東山地区	lyl		弥生時代中期後半	なし	55			第97回起の、対な年組末人におびングーを開発の音響も3組、空山ボ人、教工株の組ま入いなアプイ人、在処所に乗り392、使ご回避り1、労工株開展大化センター開発機能等で発売できませた。 1888年大日ンター開発機能等で発売が発売できませた。 8代機能第28種、労団法人、愛国県開展文化のビンター

県名 市田	市町村名・遺跡名	立地	調査面積 (一)	1 日本村		大型土坑	中型土坑、備考		X Milk
愛知県奉	奉日井市 勝川遺跡 苗田地区	田地区		弥生時代中期後半		50	3 大型 日本	上抗の内3基建物と重複する。他は建物の周辺10m 着と連続するもの1基。木製品の貯蔵用とされるもの	直展文化技化ンター運動機能再載19集 (日田氷人・麦加県組織文化対センター、橋上昇編1892 (BBI/通館VI) 「駅対原組織文化対センター調整 機由着第23種。対団氷人・製灯県組織文化対センター
三重県 名登	名張市 下川原遺跡	本価格、旧可 (1河道曲 7000河流 市 2000河流 市 2000河流 市 2000河流 市 2000河流 1000河流 100	- 郊生時代中期後半	整穴柱居4棟以上(方形。新しい領 1向)	61	大体 (は)	大型土材の内2基は住居が土坑。製力性居内のもの(10基[門田ブ三1986「下川原道節」各張市道節調査会 位)は含ま式、大型土坑、整穴柱筒(SBI1の3)の切り 合いは3つ所、1基は住居状のもの、1基は方能源薬の漢 合いは3つ所、1基は住居状のもの、1基は方能源薬の漢 る状況を示す。	田了三1986「下川原連路」名張市連隊調査会
三重県 玉物	玉城町 上の山遺跡	第 低位丘陵上	E #32400	弥生時代中期後半	方形周溝墓2基、溝1条	0	 -	1	上村安生1992「上の山運跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告103』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊橋市 構長遺跡 7次・2次	1次・2次 河岸段丘抵位面	5松面 1020	- 弥生時代中期後葉	整穴住居21棟、方形周溝離2斗。	4	0 XKO: る。 ^A 30cn	大型土坑の内SKO1は駅穴柱層の入口状のもの、SKO2と SKO3は股が大幅局を重視している。その他は柱層に顕接する。居住域内上坑とSKO2は彫み上土。全体に深さる。 3Ce相域内の土坑とSKO2は鳴多重出土。全体に深さ 3Ocm内外で添い。	小林久祿,永靖學衙1984「護及諸邸」「禮義守指謂文(戊財國內義出第18緒」禮稿市改司改司会
愛知県 豊田	豊田市 高橋遺跡(第4次)	第4次) 洪積台地	3240	弥生時代中期後黨	竪穴住居1棟	0	0		久永春男,斎藤嘉彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県 名古	名古屋市 高蔵遺跡(第 39次)	高蔵遺跡(第34次・第 洪積台地39次)	3700	弥生時代中期後葉	竪穴住居2棟	0	0		·村木紡績2003「編集文化財資養報告書46馬騰進物(第34次・第39次)」「名古屋市文化財調査報告60」名古屋市教育委員会
愛知県 知立	知立市 天神遺跡A地区	(地区 洪橋 6 地	530	弥生時代中期後葉	竪穴住居5棟(SX01は含まず)	0	0		网本茂史編1986『知立市西中遺跡群発組調査報告書 天神遺跡 (A·B)』知立市教育委員会
愛知県 知立	知立市 天神遺跡B地区	3地区 洪積台地	1520	弥生時代中期後黨	竪穴住居2棟、樫王式の土器棺墓1基の	0	1 中型	中型土坑は深さ30cm。竪穴住居と重複しない。	岡本茂史他1987 「知立市西中遺跡群発掘調査報告書川」知立市教育委員会
愛知県 知立	知立市 荒新切遺跡A区	∌A区 洪積台地	009	弥生時代中期後葉	竪穴住居3棟、掘立柱建物2棟		土坑	土坑は大小80艦、この内弥生時代の土坑は中型土坑1艦。	岡本茂史他1988 『知立市西中遺跡群発掘調査報告書川 荒新切遺跡(0』知立市教育委員会
	F				竪穴住居5棟、方形周溝墓3基		8 大型	大型土坑は井戸6基合む。	石黒立人綱1990「阿弥陀寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県 稲浜	福沢市 一色青海邊跡	吳旭後鄰 天	約20600	35生時代中期後票	整穴住居94棟、組立柱建物6棟、方 90 形間溝墓25基、相1基、溝32条、旧 河道9条	06	7 本 (本)	大型土坑は井戸1基含む。10期の遺構変遷の内2時期に竪『穴住居との重複が多い。	大世上がは井戸1番舎に、10頭の遊儀を通の庁2時期に竪・鹿山賦一・鬼隠闘・施木莫夫子1988「一色青海道路」「家知県垣職犬代けセンター調査報告書券79集」別団法人・磐垣県道職文化けセンター 穴在居との重複が多い。
愛知県 一覧	一宮市 八王子遺跡	型 超 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差 差	23740	弥生時代中期後葉	竪穴住居6棟、方形周溝墓9基	2	不明 大型-	大型土坑の内4基は方形周溝墓の主体部	・ 個上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県連議文化財センター
愛知県 稲浜	稲沢市 大塚遺跡	型 經 差 票 表	410	弥生時代中期後黨	ľ	25 2	20		北條献示2004「大塚遺跡発掘調査報告書」稲沢市都市開発鄉,稲沢市内遺跡発掘調査委員会
	豊田市 川原遺跡	型眶態響共	12500	弥生時代中期後葉	竪穴住居294棟、方形周溝墓2基、「1 土器棺6基	01	4 本	大型土坑の内8基が竪穴住居と重複しているが、居住域の 目中央部にはない。縁辺が多い。	大型土柱の内容基が竪穴住居と重複しているが、居住核の、販売庫等・赤海次郎・発頭剛・指大量美子編2001「川原道路」「愛凶県建議文化的センター調査報告書第91集」財団法人 愛凶県教育サービ ・ スセンター 愛知県塩属文化財センター ・ 大センター 愛知県塩属文化財センター
愛知県 浦米	捻颚口霉 望屈素架	對 促 能 概 展 庆	#150000	弥生時代中期後葉	竪穴住居72棟(南部) + 1棟(東部) 掘り(西部)立柱建物1棟(東部)4 (東部)2 (北部)	8	0 (西部) 規模7 56 (南部) 0 (東部) 0 (北部)	規模不明土坊が、88 (南部) + 1 (北部)。	石無江人編1991「朝日補節」「慶知県禮蔵文化はセンター調査報告書第30集」財団法人愛和県禮蔵文化財センター
岐阜県 岐阜	阜市 寺田遺跡			弥生時代中期後葉	₩.	1 干M9	1以上 土坑(土坑は全部で20基程。掘立柱建物と分布が重複する。	吉田英敏他1987「寺田・日野1」岐阜市教育委員会
	四日市市 上野遺跡	河岸段丘	3496	弥生時代中期後葉	竪穴住居24棟	0	2		春日井恒1991「上野遺跡」『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書い』四日市市遺跡調査会
l	四日市市 上野遺跡2		1982	弥生時代中期後葉	整穴住居3棟、掘立柱建物2棟、方形 0 周溝墓1基		3 か。	中型土坑の内2基は住居内の「貯蔵穴」。 1基は土器棺墓 すか。	春日井恒1992「上野道隊2」「四日市市道際調査会文/(改計調查報告書/X。四日市市道際調査会
三重県白山	日山町 大角遺跡	河岸段丘緣辺	数2 200	弥生時代中期後葉	竪穴住居2棟	0	<u></u> ,	(a)	本堂弘之1985「大角遺跡発掘調査報告」『白山町埋蔵文化財調査報告II』白山町教育委員会
景画三 100	四日市市 落上遺跡	和	36718	郊生時代中期後葉	竪穴住居126條、損立柱建物33條、 方形周溝離3基	82	64 慶次代 地部(地立 地立 してい してい	級介性風の重複は最大5階。大型土坑は5T802の上部被局。物資格昌・均正淨子「筑上道跡為報調査報告」 地部に集中する。ST802延長部の施20m程。 整分性層・ 指立在建物の開回の内容になったが入る。 場場が上載 基本のたくを型よばは5點、解接するもの器(「Inが外)。 基本的には重複しない。中型土坑は在層内に比較的多い。	積符昌・角正淳子「発上遺跡条掘調査報告」『三重原理職文化財調査報告227-7』三重原理職文化財センター
化 無	市 長遺跡	工	3700	弥生時代中期後葉	竪穴住居57棟、掘立柱建物10棟、 柱列76条	_	多 大 数 数	大型土坑は竪穴住居柱穴を含まない。土坑は柱穴を含めて、 多数。ほとんど重複していない。住居に隣接する。	大型上体は竪穴住居柱穴を含まない。土坑は柱かを含めて「地端滑行2000「長道節発掘開整報告」「三重原理職文化財調整報告227-6』三重原理職文化財センター 多数。ほとんと難復していない。住居に開接する。
三種県 準市	中山龍遠跡	工機工	1100	弥生時代中期後葉	整穴住居10棟	4	大型	大型土坑は竪穴住居と重複していないが隣接する。	,中村光司・穆梅光昌他1995「大古党論跡・山龍進跡・宮ノ前道跡発掘調査報告」『三重県垣職文化財調査報告115-4』三重県垣蔵文化財センターター
世無	市 長遺跡 1次	次(津市) 丘陵上	約750	弥生時代中期後葉	整穴住居13棟 (0	<u> </u>	4.2.	萱室康光1989「長遺跡発掘調査報告」津市教育委員会
				- 弥生時代中期後葉			0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」「昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
三重県四日	四日市市、永井遺跡		#92800	- 弥生時代中期後葉	O棟 (いくつかありそう) 、方形周 门 溝墓2基 (北側))	0 大型-	大型土坑は方形周溝墓の南側に展開する。方形周溝墓に隣、 接するものもある。	大型土坑は方形周溝幕の南側に展開する。方形周溝幕に開;山玉道明他1973「外井道路発掘調査機告」四日市市教育委員会 接するものもある。
l	名張市 ・ 辻垣戸遺跡E地区	等E基区 苔癬猴剛基	9009 年	- 弥生時代中期後葉	整穴住居1棟	本明 0基	44	やや離れているC地区には弥生時代中期土坑あり。	中村信裕「名號市赤目町辻垣戸道跡・上東野道跡」
三重当	三雲町 中之圧遺跡	三角州	3000	弥生時代中期	土坑とされているものを含めて方形、2以上 周溝墓が存在	2以上			谷本較次1972「中之圧進除発掘調査報告10」三重県教育委員会
世 無		并横微高地	12500	弥生時代中期	竪穴住居15棟以上、方形周溝墓5基 14	14	大型.	大型土坑は土壌墓として報告されている。土坑は大小 2000基程。	伊藤久嗣,吉永續夫1980「納所鑑路一遊構と進物一」三重県教育委員会
順圖二	一志町 片野遺跡	河岸段丘中位面		弥生時代中期(中期中葉が主体)	竪穴住居6棟(中葉新段階)、方形 16周溝蓋3基		3 (は方別 (でない	竪穴住居の内1棟は方形周溝墓のSDか。大型土坑の内5基; は方形周溝幕のSDとした。大型土坑と竪穴住居と重複は しない。周辺に展開。むしろ方形周溝塞と分布上重複する。	大変化の内内 編化大変形滅薬品の20分、大型上が20分では、河淋信体 1965「片野道路外掘開査報告」「三重視球膜文化が調査報告69」三重視教育委員会 は方形滅事業の50とした。大型上れた 20分と目標は しない。所辺に展開。じしろ方形周海最と分も上重複する。
愛知県 甚目	基目寺田 森南遺跡	型 縮緩響 大		1950 (E〜H 弥生時代中期後葉 区のみ) 弥生時代後期	G区 竪穴住居7棟	4 (GE) 2 (FE)	大型 2基。 ない。	土坑はG区が中期後葉1基、後期3基、F区が中期後葉 G区で中期後葉の井戸1基。G区は住居と重複してい	大型上代はCGが中部原第1基、後期3基、FGが中部発棄、長島広・安藤義弘・近原交信1990「南南道路発指調査報告書」「甚自号町文化が調査報告!」整知県海部部基目号町教育委員会 22基、GGで中部後葉の井戸1基。GEは住居と重接してい ない。

1	A THE STATE OF THE	31.	AND 100 TAX DAY	ne an		1	*** TT 100 TT	**
1	市町村名、遺跡名		調査固模 (1)	10年3月		大型土坑		X版
) 洪積台地	0006	弥生時代後期	146	58	≰の内大型土坑58基	梅本博志編1990「名古屋城三の九遺跡()」「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集」財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県 豊田市	市 高橋遺跡(第1次~第3 洪積台地 次)	第3 栄養の法		弥生時代後期	竪穴住居4棟	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷土資料館編1971「高橋建路」豊田市教育委員会
愛知県豊田市	1	洪積台地	3240	弥生時代後期	竪穴住居10棟(特殊遺構第2号を含 0	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	久永春男·斎藤嘉彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県 豊田市		洪積台地	099	弥生時代後期		0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷上資料館・豊田市郷土史研究会編1976「高橋遺跡第六次調査機報」『豊田市郷土資料館報告11』豊田市教育委員会
愛知県 豊田市	市 高橋遺跡(第7次)	洪積台地	1800	弥生時代後期	竪穴住居6棟以上	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1977「高橋遺跡第七次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告12』豊田市教育委員会・豊田市郷土史研究会
愛知県 豊田市		洪積台地	1390	弥生時代後期	以上	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	·松井孝宗1978「高橋遺跡第八次発掘調査縣報」『豊田市郷土資料館報告15』豊田市教育委員会
愛知県 名古屋市	屋市、高蔵遺跡(第34次・第 39次)	第二洪積白地	3700	弥生時代後期	竪穴住居4棟	e	1 大型土坑はWSK01土器棺墓?を含む。竪穴住居などとの 重複あり。	竪穴柱居などとの。村木献編2003「埋蔵文化は調査報告書46高蔵遺跡(第34次・第39次)」「名古屋市文化は開査報告60」名古屋市教育委員会
愛知県 稲沢市	市、堀之内花ノ木遺跡	報應經濟	7100	弥生時代後期	竪穴住居9棟	2	1基は竪穴住居と重複していてSB53より新しい。	蟹江吉弘1994「堀之内花ノ木遺跡」「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県 一宮市	市 三ツ井道路	光雪痰測	12100	弥生時代後期	竪穴住居2棟	0	-	田中仲明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県 甚目寺	甚目寺町、阿弥陀寺遺跡	共産務制	#115000	弥生時代後期	竪穴住居1棟、溝7条	12	4 大型土坑は井戸状の土坑7基含む。	石黒立人編1990「阿弥陀寺遺跡」『髪知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
無	超票田署 卑屈素素	并概 級相為	#350000	弥生時代後期	- 竪穴住居22棟(南部)	1 (困惑) 50 (屠懿) 0 (果憨) 0 (北懿)	(の 西部) 大型土坑の内、南部の9基は複数時期、中型土坑の内、南 (1 (南部) (部の) 基は複数時間。規模不明土坑が、28 (南部) + 1 (北 (北 (北 (北) (北) (北) (北) (北) (北	中型土坑の内、南;石無立人編1991「朝日通節」「愛知県埋職文化坊センター調査報告曹第30牒」財団法人愛知県組職文化坊センター 28(問節)+1(北
三重県 松阪市	市。上寺遺跡	河岸段丘	#15500	弥生時代後期	竪穴住居1棟(他1棟)	0	0	下村登良男綱1981「上寺遺跡発掘調査報告書」「松阪市文化財調査報告5-2』松阪市教育委員会
三重県 明和町	ļ		0065#	弥生時代後期		0	0	山沢養貴・谷本跋次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
三重県 松阪市	(市 小谷赤坂遺跡(第8次)	() 丘陵上	2560	弥生時代後期		20	10 南地区。大型土坑は砂生時代とされるもの。竪穴住居とは 2基重複・隣接する。中型土坑は竪穴住居の貯蔵穴のほとんど。	海地底。大型仕ばは珍生時代とされるもの。脳水程度とは「伊藤裕森編2006「天花や丘陵内建設解発掘調査報告VI」「三層県埋葬文化財調査報告260」三層県埋葬文化財センター 12基稿機・廃棄する。中型土坑は竪穴柱間の貯蔵穴のほと パんと。
三重県 松阪市	(市 小谷赤板遺跡(第6次 7次)	(・) 石陵上	3100] 弥生時代後期	竪穴住居9棟、掘立柱建物2棟、方形2 周溝墓1基		4以上 大型土坑は重複しない。竪穴住居間辺にある。	伊藤裕隆編2005 「天花寺丘麓内建跡群発掘調査帳告VI」『三鷹県埋蔵文化財調査帳告259』三艦州埋蔵文化財センター
世典 影響三	l	1 丘陵上	#31000	弥生時代後期	竪穴住居5棟	0		浅生悦生1974「野田遺跡群発掘調査報告」「津市埋藏文化財調査報告8」津市教育委員会
世無	野田遺跡群大ヶ瀬B遺 跡	道、丘陵上	#3800	弥生時代後期	竪穴住居3棟		重複しない	,法生院生1974「雰田邁遊算祭服養養告」「淨市理廣文化財調養報告B」 淨市教證教員会
三重県 玉城町	経票シャビ 田	丘陵の掲部	384	弥生時代後期	方形周溝墓3基	0	0	三重県教育委員会1979「度会郡玉城町月よへ遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
三重県 四日市市	市市 大谷遺跡	洪雪 中保	#92700	弥生時代後期	竪穴住居12棟			人/小工服物性(2016/大法國際與兩盟權金信權-74歲7、182歲7-182頁日有市場整次化的開業機合2/四日市市教育委員会-四日市業等を与令。 17.工器門1976(大会選換機服開業長日-C總区公議権-17四日市市程建文化的開業後目17四日市市教育委員会、伊藤洋1977(大会選錄展 編開業後目1-05版区後附与17四日市内部(2016/182)(四日市市政教育委員会
三	四日市市 西ヶ広遺跡	洪積台地上	# 34000	弥生時代後期			 大型土坑は整次住居秋のものSK107。不整方形 - 2025 一・30.0m。 柱外 がなし。 平底。 深ま15cm。 中型土坑は 学生土総出土。 古郷の代象期は整次住居10棟、土坑15ヶ 所 (全て大型のもの)。 	一
三重県 四日市市	市市 永井遺跡	台地上	#J2800	弥生時代後期	竪穴住居19棟	0	0 弥生時代後期は不明、土坑の報告なし。	小玉道明他1973「永井遺跡発掘調査報告」四日市市教育委員会
愛知県 名古屋市		洪積台地	ļ	弥生時代後期~	竪穴住居10棟			服部哲也1991「三王山遺跡発掘調査の概要」名古屋市教育委員会
三重県 伊勢市	超過阿爾 中	上位段丘	2500	弥生時代後期後半~古墳時代前期初 竪穴住居22棟以上 顕 週間の前半入るか?		0	7、大型中型土坑は報告ではない。平安時代後半の連構が多く「岩中洋之編1987「隠岡連節発掘調査報告」 ・不明。	古中华之黨1987「原同議除先照置查報告」「伊勢市文化的調查報告5」伊勢市教育委員会
	市 高橋遺跡(第9次)	米積合地	1 200	弥生時代後期~古墳時代前期初頭	竪穴住居17棟(寄道8棟、欠山9 棟)	2	大型土坑は待殊遺構1を含む。土器焼成坑の指摘あり。 (後期)	谷沢良光1979「高塘道胺類九次発掘調查機製」「豊田市郷土資料體報告17」體田市教育委員会
愛知県春日井市	井市 西田遺跡	光 養後剛在	9882	弥生時代後期~古墳時代前期初頭	竪穴住居25棟、方形周溝巖3基(弥 生時代中期後葉)、他にSD03	94.±	 1以上 土坑は23基あるが半分以上右坑以後。SK(33か/SB07を 切っている。SK(45か/SB22により切られている。住居に (中ちものがSB16。土坑敷は後期以後も主体。他は住居の 周辺に多い。 	- 神谷灰和編1989「町田道路」「東虹県埋蔵文化財センター調査報告書第9集」房団准人 ・ 髪虹県埋蔵文化財センター
愛知県 名古属	名古屋市 見晴台遺跡 西側地区 洪積台地	5区 洪積台地	 	弥生時代後期~古墳時代前期前半	SB55海			伊藤厚史·野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県 名古屋	名古屋市 見晴台遺跡 中央地区 洪積台地	1区 洪積台地		- 弥生時代後期~古墳時代前期前半	SB104棟	7	大型土坑の内2基は中世?	伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書―遠橋編―」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県 名古屋	名古屋市 見晴台遺跡 東側地区 洪積台地	5区 洪積台地		弥生時代後期~古墳時代前期前半	8棟	9		伊藤原史·野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県 名古屋市	見晴台遺跡	北側地区 洪積台地	ļ	弥生時代後期~古墳時代前期前半	3棟	e	大型土坑は縄文時代晩期の可能性あり。	伊藤厚史·野口泰子1993 「見場台通跡発掘調査報告書一連構編一」名古屋市見晴台考古資料館
三重県 松阪市	i市 川原表B遺跡	丘陵斜面	約2000	弥生時代後期初頭	竪穴住居6棟	0	住居内の壁際土坑1基(長径1mをこす)	西田尚史,福田昭1990「中鄉平成台団地埋藏文化財発掘調查報告書」松阪市教育委員会
愛知県 一宮市	市 八王子遺跡	型 運 銀 運 乗 乗	23740	· 弥生時代後期前葉 · 後葉	(前葉)竪穴住居28棟、細立柱建物 58 1棟、(後葉)竪穴住居7棟	58	大型土坑は12基+46基(古墳時代前期を含む)。Hb区で は竪穴住居と多数重複あり	大型土坑は12基+46基(古墳時代前期を含む)。Hb区で7級上昇編2001「八王子道路」「變虹県埋蔵文化財センター調査報告書第92集」財団法人變知県教育サービスセンター製知県埋蔵文化財セン は竪穴住居と多敗重複あり
三重県 朝日町		丘陵開谷部	22808		竪穴住居7棟、水田2群15筆	8	大型土坑は竪穴住居内貯蔵穴2基含む。SH4・5周辺に集 中するが遺構重複しない。	大型土坊は竪穴住居内貯蔵穴2基合も、SH4・5周辺に集・物積裕昌・角正淳子編2004「辻子道路発掘調査報告」「三重県埋蔵文化財調査報告227-6』三重県埋蔵文化財センター 中するが遠推重復しない。
三重県松阪市	黎製品幣 中	對順態論片壓	14926	弥生時代後期前半	掘立柱建物4棟(遺構の削平を受けている。集落の中心部と外にもある。)	41	0 大型土坑の内1基は井戸SE327。 掘立柱建物とは重複しなこい。	大型土坑の内) 基は井戸SE327。 細立柱建物とは重複しな4小薬学他「細門道跡」『三重泉塩間交化砂調査報告 123~7』 三重泉垣間交化砂センターい。

市町村名 遺跡名 立地	Ħ		調查面積	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑、備考		文献
對單級學共 婚票中円	型電腦器		4800 (4次と 5次併せて)	(リングと 弥生時代後期〜週間 式 4800 (4次と 弥生時代後期〜週間 式 5次件せて)	方形周鴻墓10諡	16	2 X 7 X	型土坑はSZ10・SZ11とSZ13の内態主体として核出さ ている。他にSZ10に楕円形の土坑5~6基。中型土坑は :10のマウンドから。	大型土がはSZ10・SZ11とSZ13の内部34年として修出さら高黒立人編1993(山中道路)「黎虹県理職文化財センター調査報告書票45集」財団法人 嬰虹県担職文化財センター れている。他にSZ10に楕円形の土均5~6誌。中型土均は SZ10のマウンドから。
村竹コノ連路 第3次 半遺銭高地	4個級艦共	-E)	1500	弥生時代後期~週間 式	竪穴住居11棟(方形)	_	₹	大型土坑は井戸。	三重乗機変大(8センター2005 「一般国道42号/イイ/ス核版・多気発組調査ニュースNo.19」三重保理機文(8けセンター 三重保理機文(8けセンター2005 「村竹コノ道路(第3次)発掘調査規総即将会資料)三重保理機文(8けセンター
村竹コノ遺跡 第2次 半機微高地 B2区		型	<u> </u>	弥生時代後期~週間 式	整穴住居3棟	4	₹	大型土坑は新しい時代のものもあるか。	三重再集職文(64センター2005 「一般国道42号/イイ/74版版・多条条組調書ニュースNo.19」三重県埋職文(64センター 三重係塩職文(64センター2005 「村竹コノ道路(第3次)条組調査長地的第会機料、三重係埋職文(61センター
春日井市 勝川遺跡 上屋敷地区				- 弥生時代後期末~古墳時代前期	方形周溝墓22基	0	0		赤導次級議1884 「勝川」『駿泊県教育サービスセンター連環文化は調金帳車第7集』財団法人慶泊県教育サービスセンター、松原衛治議1988 「勝川議路」『駿知県埋蔵文化砂センター調査報告書籍3集』財団法人 - 駿知県埋蔵文化砂センター、松原落治議1992「郷川議路1」『駿知県
春日井市 勝川遺跡 南東山地区				弥生時代後期末~古墳時代前期		5以上	₹	大型土坑は時期不明	埋蔵文化財センター調査報告書第19集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、極上界編1992「勝川遊跡Ⅳ,『愛知県埋蔵文化財センター調査 報告書第29集』財団法人 夔知県埋蔵文化財センター
名古屋市、三王山遺跡 丘陵上	五一一一		4900	弥生時代後期末~古墳時代前期初頭 竪穴住居7棟、方形周溝墓		2	2		村木飯編1999「三王山遺跡(第1~5次)」『名古屋市文化財調査報告40』名古屋市教育委員会
野垣内遺跡 河岸段丘線辺	部進回	丘線辺	1000	· 弥生時代後期末~古墳時代前期初頭 · 竪穴住居21 棟、土器棺墓1基、 周溝墓4基	頭 竪穴住居21棟、土器棺墓1基、方形 0 周溝墓4基	0			三重県教育委員会1974「伊勢市上他町野垣内建防」「昭和48年度県営團場整備書業地域提展文(お財産を修造」
對順級膨共	継 大	型	11591	弥生時代後期末~古墳時代前期前半 竪穴住居75棟、墳丘墓5基		21	£ <u>₹</u> ∄%	大型士机の内2路は井戸(窓か住居と分布は重複あり)。土坑の路、赤線次部編1990(超問過路)は地丘線220 に実験し、14場に繋えない、13場は窓へ住地になる。 6。土路集業4歳に合まず、あまり離盤しない。	様次能議1390「周囲滅跡」『変礼県組購次代げセンター調査報告機第10種』財団派人 数札県艦購次代店センター
砂行遺跡 丘陵斜面	丘陵综	圏	11250	弥生時代後期末~古墳時代前期前半 竪穴住居53棟、	掘立柱建物1棟	0? 不明	0.5		成瀬正勝編2000「砂行遺跡」『岐阜県文化財保護センター調査報告書幣65集』財団法人 岐阜県文化財保護センター
城屋敷遺跡 河岸段丘	型 型	坦	2000	弥生時代後期末~古墳時代前期前 半、週間 式位まで	竪穴住居8棟	0	0		門田了三1985「城屋敷遺跡」名張市教育委員会
ニツ井通路 弁債徴高地	能艇共	画	12100	古墳時代前期後半		_	¥.	大型土坑は井戸で、溝とセットになる。	田中仲明・鬼頭剧編「三ツ井遺跡」『駿知県埋蔵文化財センター調査戦告書第87集』財団法人 繋知県埋蔵文化財センター
南山畑道跡 洪積台地	概	型	7220	古墳時代前期初頭	整穴住居19棟、掘立柱建物2棟、方 形岡溝墓1基	m	_ ≾ ¼ ∰	大型土坑は性格不明道権舎む。SK17か1基のみ重複す る。他は竪穴住居の周辺5m内外に分布する。中型土坑は 性格不明道機。	天野海之編1899「南山街遊跡」「會田市埋職文化均豫組調査號由書第10集』
高橋遺跡(第1次~第3 洪積台地 次)		全		古墳時代前期初頭	竪穴住居28棟	_	火魔	大型土坑は住居との重複はない。中型土坑で竪穴住居の庁"農田市郷土資料総籍1971「高橋進跡」農田市教育委員会 「騰穴がある。	田市第二政政縣第1971「高總議職」, 豊田市敦藩委員会
高橋遺跡(第4次) 洪積台地	米種卡	3.推	3240	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	0	Ē	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	久永春男,斎藤縣彦他1969「高橋進跡」豊田市教育委員会
高橋遺跡(第6次) 洪積台地	無米	10年	099	古墳時代前期初頭	竪穴住居5棟	0	. <u>#</u> .	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷上資料館・豊田市郷土史研究会編1976「高橋通跡第六次調査機綱」「豊田市郷土資料館報告11」豊田市教育委員会
	拠	中地	1800	古墳時代前期初頭		0	Ĩ.	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1977「高橋遺跡第七次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告12』豊田市教育委員会・豊田市郷土史研究会
		台地	1 390	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟以上	1	Ű,	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1978「高橋遺跡第八次発掘調査機報」「豊田市郷土資料館報告15」豊田市教育委員会
名古屋市 高藏遺跡(第34次·第 洪積台地 39次)		中海	3700	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟	0	0		村木紡編2003「埋藏文化財調查報告書46高歲進動/第34次,第39次)」「名古屋市文化財調查報告60」名古屋市教育委員会
	無	共富物制法	#38000	古墳時代前期初頭		42	为	542	赤塚次郎編1987「土田遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
	影	光纖緩剛為	23740	古墳時代前期初頭	竪穴住居59棟(週間1式) +8棟(週間1 式)、掘立柱建物8棟、区画溝あり	72	K	大型土坑は26基+46基(弥生時代後期を含む)	通上昇編2001「八王子進跡」「寮知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集」財団法人寮加県教育サービスセンター勝知県埋蔵文化財セン (ター
仲垣内遺跡 丘陵(上級(丘陵の裾部	400	古墳時代前期初頭	竪穴住居1棟	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
超景田器 空垣素膜	泉	计	#150000	古墳時代前期初頭(VI~VII購)	壁穴住居6棟+9棟(古墳時代)(南部) +1棟(東部)	0 (西部) 23 (南部) 9 (東部) 0 (北部)	0 (西部) 規模 6 (南部) 数形 1 (東部) 0 (北部)	規模不明土坊が、12 (南部) +3 (耒部)。 内、南部の5基は増勢時期。	規模不用士坊が、12(南部)+3(東部)。内、南部の5基は他、石黒立人編1991「朝日道部」「愛知県埋職文化財センター調整報告曹第30集」財団法人愛知県連覇文化財センター教部期。 教部期。
	米書	洪積台地線辺	200	古墳時代前期初頭、週間1~11式		0	0		倉田直純・東浩成1988「勝田遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告82』三重県教育委員会
中熊遺跡 洪積台地	標	小地	420	古墳時代前期初頭、週間式	竪穴住居1棟	0	0		萱室康光1977「中蔣遺跡発掘調査報告」「津市埋蔵文化財調査報告14』津市教育委員会
中楽山遺跡A地区 低位	低位	低位丘陵上	試掘グリッド	: 古墳時代前期初頭、廻聞 式		2	Ŕ.	大型土坑は未完掘。重複なし。	下村登良男1973「伊勢市上地町・中楽山」『昭和47年度県営圏場整備地域埋蔵文化財調査報告4』三重県教育委員会
赤垣内遺跡 丘陵	丘陵	丘陵の裾部	750	古墳時代前期初頭主体	竪穴住居8棟、捆立柱建物1棟	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡王城町赤垣內遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
名古屋市 名古屋城三の九遺跡 洪積台地	米米	台地	0006	古墳時代前期初頭~前期前半	竪穴住居23棟、方形	58	. Mr.	弥生時代中期~古代までの土坑100基の内大型土坑58基	梅本博志編1990「名古屋城三の丸遺跡(I)」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
木遺跡	兼	半機後高地	7100	古墳時代前期前半		1			蟹江吉弘1994「堀之内花ノ木遺跡」『髪知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集』財団法人 - 髪知県埋蔵文化財センター
(編集)	能	発電器を	10568	古墳時代前期前半	竪穴住居1棟、 墳丘墓5基、溝5条、水田15筆	e	図え	竪穴住居は週間 式。大型土坑は墳丘墓と重複する。住居 とは重複しない。	- 赤塚次郎編1997「西上免進跡」「愛知県塩騰文化財センター調査報告書第73集」財団法人 - 愛知県垣職文化財センター-
	崖	免丘	3496	古墳時代前期前半、廻間Ilor後半	竪穴住居11棟	0	0		春日井恒1991「上野遺跡」『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書V』四日市市遺跡調査会
中蔣遺跡 洪積台地	影扶	当地	420	古墳時代前期前半、週間旧式		0	1 他	他に数基の土坑あり。	豐室康光1977「中蔣遺跡発掘調查報告」「津市埋蔵文化財調查報告14』津市教育委員会
新知遺跡A地区 丘陵上	極出		700	古墳時代前期前半、松河戸 式	竪穴住居9棟(内1棟は円形周溝遺構)	വ	5~6 大道	大型土坑の内3基が竪穴住居2棟と重複している。中型土 坑は竪穴住居内の壁際土坑4~5基を含む。	古村利男1973「新超遊隊発掘調查機告」「津市堡職文化財調查機告7」新超遊隊発掘調查団
	l				-				